

『仏文研究』執筆要項 (PDF 入稿版)

2024年6月7日改訂

*執筆要項は厳守してください。要項からの著しい逸脱が見られる際は、編集委員会の判断により、論文投稿が認められない場合がございます。悪しからずご了承ください。

①基本的な書式

1. 原稿作成にはワープロソフト Microsoft Word を用い、注・参考文献・図表類・仏文レジユメを含めて 30 頁以内とする。

2. 日本語論文の場合

・B5 判用紙に全角 42 字×34 行とする。

A) 表題

・冒頭一行目の中央に記入する。文字ポイントは 18。副題がある場合は改行して記入すること。副題の文字ポイントは 14 ポイント。

B) 姓名

・表題または副題から 14 ポイントで 2 行あけて書く。姓名のあいだは全角で 1 字あける。

C) 本文

・小見出しから 11 ポイントで 2 行あけて書き始める。段落の冒頭は全角 1 字下げる。

D) 注

・本文から 1 行あけて「注」と中央揃えで MS ゴシック体の太字で書き、改行して始める。(→⑦を参照)

3. フランス語論文の場合

・B5 判用紙に半角英字 84 字×35 行とする。

A) 表題

・冒頭一行目の中央に記入する。文字ポイントは 18。副題がある場合は改行して記入すること。副題は表題と同じ 18 ポイント。

B) 姓名

・表題または副題から 14 ポイントで 2 行あけて書く。Nom, Prénom のあいだは半角で 1 字あける。

C) 本文

・小見出しから 11 ポイントで 2 行空けて書き始める。段落の冒頭は半角 2 字下げる。

D) 注

・本文から 1 行あけて「Notes」と中央揃えのボールド (太字) で書き、1 行あけて注本文を始める。(→⑦を参照)

②文字・記号

1. 日本語論文の場合

・本文・注ともにフォントは MS 明朝を用い、文字ポイントは基本的に 11 とする。

・アルファベットや数字は原則半角とし、フォントは Times New Romanを用いる。

2. フランス語論文の場合

・アルファベット、数字は半角とする。

・本文・注ともにフォントは Times New Romanを用い、文字ポイントは 11 とする。

- ・大文字のアクセントを付けるか否かは執筆者に委ねる。ただし要統一。

③作品名

1. 日本語の書籍・雑誌名は、『 』に入れる。論文名や章、詩の題名などは「 」に入れる。
2. フランス語の書籍・雑誌名はイタリックにする。論文名や章、詩の題名などは« »に入れる。

例) 『物の味方』所収の「水について」
« De l'eau », dans *Le parti pris des choses*

④章分け

- ・章分けを行う場合は、前の文章から 1 行あけて、**左揃え**で数字と小見出しを入れる。ただし、序/**Introduction** と結/**Conclusion** については**中央揃え**とする。
- ・小見出しと本文のあいだは 1 行あけず、改行後全角 1 字（フランス語の場合は半角 2 字）下げで本文を始める。章と章のあいだは、1 行あける。
- ・フランス語論文の場合はボールド（太字）、日本語論文の場合は MS ゴシック体の太字にする。
- ・小見出しのみ、または数字のみの場合は、行の中央におくこと。

⑤引用

1. 日本語論文の場合

- ・**前後を本文から 1 行ずつ空け、引用文全体を左端から全角 2 字分下げる**。段落の冒頭はさらに全角 1 字下げる。
- ・本文中で短い引用をする場合は、「 」に入れる。
- ・引用文中で中略、以下略を表す場合は、[...] と表記すること。

2. フランス語論文の場合

- ・**前後を本文から 1 行ずつ空け、引用文全体を左端から半角 2 字分下げる**。段落の冒頭はさらに半角 2 字下げる。引用の前後に« »は不要。
- ・ただし、本文中で短い引用をする場合は、「 »に入れる。
- ・引用文中で中略、以下略を表す場合は、[...]と表記すること。
- ・日本語、フランス語のいずれの場合も、出典のページ数を表記する際は、引用の末尾に注をつけて、p. 50 のように表記する。複数のページにわたる場合は、pp. 51-54 のように表記する。

⑥作品参照

- ・単行本の場合、**著者名、書名、出版社名、叢書名、刊行年、ページ数**の順番とする。刊行地は不要。表記は以下の例に倣うこと。

例) 大岡昇平『歴史小説の問題』文藝春秋、1974、p. 120。
Michel Foucault, *La volonté de savoir*, Gallimard, 1976, pp. 55-57.

- ・雑誌論文の場合、**著者名、論文名、雑誌名、号数、刊行年、ページ数**の順番とする。

例) 中川久定「新井白石によるキリスト教の紹介と反駁」『思想』第 835 号、1994、pp. 92-94。
Philippe Sabot, « L'expérience, le savoir et l'histoire dans les premiers écrits de Michel Foucault », *Archives de philosophie*, vol. 69, n° 2, 2006, pp. 285-303.

⑦注

- ・注は本文のあと（原稿末尾）にまとめて置き、脚注にしない。その際、本文と同一のフォント・ポイントを用いること。本文中では、右肩付き文字で¹⁾²⁾と通し番号をつける。通し番号は、日本語の場合は句読点、フランス語の場合は *point* や *virgule* の直前に置く。

例) ...が指摘する通りである¹⁾。

ただし、「:」「;」「?」「!」の場合はその直後に置くこと。

例) Quelle est la langue la plus difficile à apprendre ?⁴⁾

- ・本文から 1 行あけて「注」と中央寄せで書き、改行して始める。それぞれの注は、注番号に続けて右側に丸括弧を置き（日本語の場合は全角、フランス語の場合は半角）、半角 1 字分あけて注の内容を書きはじめる。注が 2 行以上にわたる場合は、2 行目以降は文頭を下げる必要はない。

例) 1) この点についてはドゥルーズも指摘している。

- ・以前に触れた作品を参照する場合は *op. cit.*、直前の注で触れた作品を参照する場合は *ibid.* を用いる。

⑧タイトル

- ・日本語のほか、フランス語（および執筆者の希望があれば英語）タイトルを編集委員会に通知すること。
- ・フランス語（および英語）タイトルを編集委員会に通知するのは、初校入稿までとする（目安：8月上旬）。

⑨仏文レジュメ

- ・仏文レジュメは注および参考文献の次に、2 行あけてタイトルを入れ、さらに 1 行あけてレジュメ本文を始める。ただし、レジュメ本文は 1 頁（36 行）以内とする。
- ・レジュメ本文のあとに 1 行あけて執筆者名および肩書きを入れる。

例) Hanako KYODAI

Étudiante en 2^e année de doctorat
à l'École doctorale des Lettres de l'Université de Kyoto

- ・仏文レジュメは、原稿提出前に執筆者が自己の責任においてフランス語を母語とする者の校閲を受ける。
- ・仏文レジュメ提出期限は、初校入稿までとする。
- ・フランス語で執筆した場合、仏文レジュメの提出は不要とする。

⑩行間

- ・ホームタブの「段落→行間のオプション→インデントと行間隔」で行間を「固定値」にし、日本語論文の本文は 16 pt、注は 13 pt とする。フランス語論文の本文は 15.5 pt、注は 12 pt に設定すること。